

嶺南地方淡水魚類採集記

丹生高等学校 加藤文男

緒論

福井県産の淡水魚で嶺南地方の魚類についてはあまり報告がないように思われる。まだ全部の資料を得た訳ではないが、1963年から1964年の間に主に河川上流域を調査したのがあるのでここにその生息状況を報告し今後の参考資料としたい。なお魚類の地方名についてもふれたい。なお魚類の地方名についてもふれたい。D：背びれ条数 A：しりびれ条数 P：胸びれ条数 V：腹びれ条数を示す。

結果

I. ヤマメとアマゴ

○ヤマメ *Oncorhynchus masou* (BREVOORT)

サクラマスの河川型、形態、D. 13、A. 13、頭長比3.95、体高比4.40、鰓条骨数12、第1鰓耙数6+12、側線の鱗数127、バーマークあり、鱗相ヤマメ型、体側の朱点なし（南川染ヶ谷にて1964.8.25採捕、体長154mm 2年魚♀による）。

採集地 五位川、耳川、はす川、北川、遠敷川、南川（図1）。

○アマゴ *O. rhodurus* JORDANet MCGREGOR

ヒワマスの河川型、形態、D. 14、A. 13、頭長比4.27、体高比3.92、鰓条骨数13、第1鰓耙数8+12、側線の鱗数131、バーマークあり、体側に朱点あり、鱗相はアマゴ型を示す（黒河川にて1963.6.16採捕体長188mm 2年魚♀による。）

採集地 黒河川のみ。放流による人為的な生息である（図1）、（黒河川は笙の川水系である。

ヤマメとアマゴの地理的分布については、嶺南の河川はヤマメの分布域がある事が以上の採集によりはっきりし大島（1957）の説に全く一致した。黒河川は現在殆んどがアマゴでヤマメは少くなり採集出来ない状態である。嶺南地方でのヤマメの生息報告ははす川を知るのみである（大島1957）。なお佐分利川ではヤマメの生息を確認出来ない。

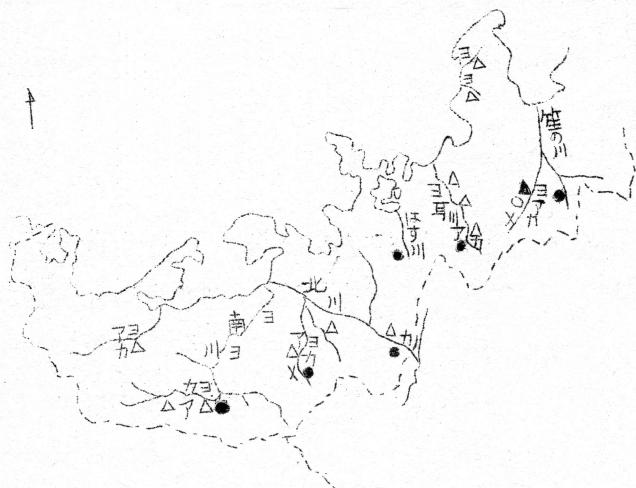


図1. 嶺南地方のヤマメ (●)、アマゴ (○)、イワナ (x)、シマドジョウ (△)、
アジメドジョウ (▲)、アカザ (ア)、カジカ (カ)、ヨシノボシ (ヨ) の生息

II. アジメドジョウとシマドジョウ

○アジメドジョウ *Cobitis delicata* NIWA

背びれと腹びれの起点はそれぞれ体の中央より後方にある。背びれ起点より前方の筋節数
22 (1964.8.24. 黒河川雨谷にて採集 体長 68mmによる)。

採集地 黒河川のみ (図1)。

○シマドジョウ *C. biwae* JORDAN et SNYDER

背びれと腹びれの起点はそれぞれ体の中央より前方にある。背びれ起点より前方の筋節数
15. 体側の暗色斑点列型、♂の胸びれ骨質盤は細長い。

採集地 耳川、北川、松永川、遠敷川、南川、佐分利川、馬背川、落合川 (図1)

アジメドジョウは日本特産でその分布は本州中部、近畿の数河川の上流域に限られ清流を好んで生息する (中村 1963)。福井県での生息報告は九頭竜川水系の源流、石徹白川、真名川、日野川があるのみである (丹羽 1955)。今回の調査で日野川より更に南の別水系である黒河川でその新生息を見たのは貴重な収穫といえる。しかもその隣の耳川以西に現在の所の生息を確認出来ず福井県での分布の西限になっている事は興味のある所である (図1)。黒河川のアジメドジョウは筆者現地にて採集したものである。なおこのアジメドジョウの一部はその種の発見者丹羽弥博士並びに武生高校五十嵐清教諭に提供した。なお嶺北河川についても追ってまとめるつもりである。

次にシマドジョウは一見アジメドジョウによく似ており混同し易い。嶺南地方の河川に多く

生息している事を確認した(図1)。

なお採集したアジメドジョウとシマドジョウを丹羽弥博士に御鑑定戴き深く感謝します。

III. イワナ *Salvelinus pluvius* (HILGENDORF)

形態、採集地共に表1に示す。

イワナは遠敷川まで確認出来たが南川以西ではまだ確認をしていない(図1)。その特徴は大島(1961)の云うニッコウイワナ(*S. pluvius*)に属するものと思われる(表1)。

項目 河川	D	A	P	V	頭長比	体高比	体長	♂♀	第鰓耙一数	鰓条骨	パマ ーク	側部線鱗上数	側部線鱗下数	年令	採月 集日
黒河川	13	9	13	9	3.91	4.15	137	♂	4+9	11	あり	45	42	2	1963.6.2
遠敷川	13	11	13	9	3.87	4.61	120	♀	4+10	13	あり	42	42	1	1964.8.30
黄点 と鱗相	黄色の斑点あり(体側)。鱗の露出部の周囲の環線1~2線切れる。冬帯1個あり(黒河川産)。														
	体長小さく 黄点不明瞭(体側)、鱗相は1年魚を示し冬帯なし(遠敷川産)。														

表1. イワナの形態測定

IV. アカザ、カジカ、ヨシノボリ

○アカザ *Liobagrus reini* HILGENDORF

形態 脂びれの後端は体背から遊離せず、しかも尾びれと連続する。上あご下あご各2対のひげがある。

採集地 黒河川、耳川、遠敷川、南川、佐分利川(図1)。

○カジカ *Cottus pollux* GÜNTHER

形態 えらぶた骨にある棘は1本、胸びれの軟条分岐せず、D₁ . D₂ . 16、A . 12、P . 13。(1964.8.28 南川口坂本にて採集体長69mm)

採集地 黒河川、耳川、北川、遠敷川、南川、佐分利川(図1)。

○ヨシノボリ *Rhinogobius brunneus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

形態 腹びれの吸盤の長さは幅よりも短い、P . 21、体側に褐色の横斑が並ぶ(耳川産)

採集地 黒河川、耳川、遠敷川、南川、佐分利川、馬背川、落合川(図1)。

ヨシノボリの近似種にカワヨシノボリがあるが(胸びれ条数15~17)採集出来なかった。

V. その他の採集魚種に以下のものがある。

○ウグイ *Tribolodon hakonensis hakonensis* (GÜNTHER)

南川(名田庄村口坂本)

- カマツカ *Pseudogobio esocinus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
名田庄村三重細流
- オイカワ *Zacco platypus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
南川(名田庄村口坂本)
- カワムツ *Z. temmincki* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
南川(名田庄村口坂本)
- ナマズ *Parasilurus asotus* (LINNE)
名田庄村三重細流
- ドジョウ *Misgurnus anguilllicaudatus* (CANTOR)
名田庄村口坂本細流
- スナヤツメ *Entosphenus reissneri* (Dybowski)
円口類、名田庄村三重細流
- 地名について、() 内地名を示す。
- ヤマメ： アマゴ (遠敷郡の一部を除く一円)、 アマゴ (名田庄村口坂本、三重)
- アマゴ： アマゴ (敦賀市雨谷)
- サクラマス： マス (嶺南一円)
- サケ： サケ (嶺南一円)
- イワナ： イワナ (敦賀市雨谷、遠敷郡青谷)、 イモユウ (三方郡松屋)、 イモウオ (滋賀県天増川-北川上流部落)
- アユ： アユ (三方郡松屋、遠敷郡石山、青谷等嶺南一円)、 アイ (名田庄村口坂本)
- カマツカ： カマツカ (名田庄村口坂本)
- ウグイ： ウグイ (嶺南一円)、 サクラウグイ (三方郡松屋、婚姻色を示すものを云う)
- アブラハヤ： ハイゴ (三方郡松屋)、 クソバエ (名田庄村口坂本)、 ヤマゴ (遠敷郡石山)、
ドロバエ、 ハエ (遠敷郡青谷)、 クソモツ (敦賀市雨谷)
- カワムツ： アカモト (遠敷郡石山、口坂本)、 ムツ (遠敷郡青谷)、 アカアサジ (敦賀市雨谷)
- オイカワ： ハイ (名田庄村口坂本)、 シロアサジ (敦賀市雨谷)
- ドジョウ： ウシドジョウ (名田庄村口坂本、三重)、 ホンドジョウ (遠敷郡青谷)、 ドジョウ (遠敷郡池河内)、 ナラドジョウ (滋賀県天増川)、
- シマドジョウ： タケドジョウ (遠敷郡池河内、青谷、石山、口坂本)、 シマドジョウ (三方

郡竹波)、トジョウ(遠敷郡松屋)

アジメドジョウ：タケドジョウ(敦賀市雨谷)

アカザ：アカモン(三方郡松屋)、アカヒチ(遠敷郡石山、口坂本)、アカリヌ(遠敷郡青谷、三重、池河内)、アカラ(敦賀市雨谷、滋賀県天増川)

ウナギ：ウナギ(嶺南一円)

ヨシノボリ：ゴロ(名田庄村口坂本)、スイツキゴロ(名田庄村三重)、ゴロツバチ(遠敷郡石山)、ウメブシ(遠敷郡青谷)、インブシ(滋賀県天増川)

カジカ：ガツチ(遠敷郡松屋)、ゴロ(名田庄村口坂本)、ゴロツバチ(遠敷郡石山)、ブシ(遠敷郡青谷、滋賀県天増川)、デンボ(敦賀市雨谷)

フナ：フナ(嶺南一円)

コイ：コイ(嶺南一円)

ナマズ：ナマズ(嶺南一円)

スナヤツメ：ヤツメウナギ(嶺南一円)

以上地方名について見ると先ず和名(標準名)と同じ呼び方でしかも共通的な呼び名にはサケ、アユ、ウグイ、ウナギ、フナ、コイ、ナマズ等がある。次に別種と混称するが共通的な呼び名にはヤツメウナギ(スナヤツメの事)、アマゴ(ヤマメの事)がある。又、和名にはないが共通的な呼び名にタケドジョウ(シマドジョウの事)、マス(サクラマスの事)がある。更に一番多く地方名を持つ魚種にはアブラハヤがあり、体色黒っぽく食用にも供されない為かクソモツ、クソバエ、ドロバエ等という名がついている。次に地方名の多いものとしてアカザ、カジカ、ヨシノボリ等がある。特に外観のよく似ている種に同じ呼び名をつけておりそのような例としてシマドジョウとアジメドジョウ(いずれもタケドジョウと呼ぶ)、ヤマメとアマゴ(いずれもアマゴと呼ぶ、必要の際朱点のないヤマメの方を青点、青点アマゴ、朱点のあるアマゴの方を赤点、赤点アマゴ等と云う時がある—敦賀市)、カジカとヨシノボリ(ゴロ、ゴロツバチと呼ぶが腹部にある吸盤によりヨシノボリの方をスイツキゴロと云う時もある)がある。なおオイカワの名の分らぬ所があり(遠敷郡青谷)、遠敷川、南川ではオイカワが鮎の放流と共に生息するようになった事を聞いた(遠敷郡青谷、口坂本)。元来この種は中部、近畿、中国地方で分布しない河川が多くかったという事であり(宮地他 1963)、嶺南地方においても以前この種の生息がなかった河川が多くあった事を暗示しょう。

終りに際し嶺南地方の魚類採集に便宜を与えられヤマメの材料提供を受けた若狭農林高校大西幹夫教諭に厚く御礼申し上げます。

要 約

今回の調査は嶺南地方の主として河川上流域に生息する魚種についてである。

- ① 嶺南地方の河川はヤマメの分布域であり、大島（1957）の説に全く一致する。
- ② アジメドジョウは福井県において、北は九頭竜川水系の上流から嶺南地方の黒河川まで分布している。黒河川はその新産地である。
- ③ イワナは大島（1961）の云うニツコウイワナの形態に属している。
- ④ その他の採集魚種にアマゴ、シマドジョウ、アカザ、カジカ、ヨシノボリ、ウグイ、カマツカ、オイカワ、カワムツ、ナマズ、ドジョウ、スナヤツメ（円口類）がある。
- ⑤ 嶺南地方において以前オイカワの生息がなかった河川が多くある事を暗示した。
- ⑥ 魚類の地名については別記の通りである。

文 献

1. 宮地 他 原色日本淡水魚類図鑑 保育社 1963
2. 中村 守純 原色淡水魚類検索図鑑 北隆館 1963
3. 松原喜氏松 魚類の形態と検索 石崎書店 1961
4. 大島 正満 桜鱒と琵琶鱒 榆書房 1957
5. " 日本産イワナに関する研究 鳥獣集報 1961

以上 (1965.1.20)